

②食と花の魅力づくり

全国に誇るべき食と花の魅力づくり

多彩な農産物が実り、おいしい魚が獲れ、美しい花が咲き誇る本市の特性を活かし、農業者が安心・安全な農産物の生産に取り組むことにより、農業者と消費者とが食と花を通じて互いに恵みあう関係を築き、素晴らしい食と花を国内外に発信・供給していきます。

また、本市の産業の柱のひとつである農業において、おいしくて低コストな米づくりや高付加価値産品の開発に取り組むなど、高収益農業への転換を図るとともに、今後の農業経営の安定化を図るため、意欲ある担い手の育成をはじめ、既存農家の経営合理化などにも取り組みます。



現状

- 本市の食と花は、全国に誇るべきものですが、十分に認知されていないのが現状です。
- 米の輸入自由化等厳しい経営環境の中、将来を見据えた農業経営の強化が必要です。

新潟市ブランドの確立

- 代表的なブランドの確立
- 「食と花のにいがた」の積極的な情報発信

安心・安全・おいしい農水産物の供給

- 環境にやさしい農業の推進
- 農水産物の安心安全対策

水と緑と人のネットワークの形成

- 都市型グリーン・ツーリズムの推進

収益性の高い農業の確立

- 意欲ある担い手の育成
- 売れるおいしいお米の生産
- 園芸産地の拡大

農業・農村に親しむ場の整備

- 拠点施設における「にいがたの食と花、農業・農村」の発信と体験や食育・花育の推進

寄り道したくなる美しい農村の形成

- 魅力あふれる美しい農村景観の形成
- 遊歩道整備や花壇づくりなど



H26 の目標

- 多彩な食と花の都として躍動する都市を目指します。
- 農業者と消費者が互いに恵みあう都市を目指します。
- 魅力ある田園環境を満喫する都市を目指します。

指標

園芸等の農業産出額
(H17) 295億円⇒(H26) 328億円

食料自給率
(現在) 60%⇒(H26) 70%

市民農園の区画数
(現在) 1,147区画⇒(H26) 1,500区画

※農産物の生産に関する指標については、目標年における気象状況等が影響する場合があります。



③ 水辺と緑のまちづくり

水，緑，まちが，ゆたかにむすび合う

信濃川や阿賀野川に代表される大小河川や湖沼などの水辺や海辺，さらには田園において，自然環境に配慮した親水空間を創出するとともに，良好な景観を規制誘導します。これらの貴重な環境資源が，ゆたかにむすび合い活かしあう—そんな“新潟”独自の景観を目指します。

水・緑・まちの景観・ネットワーク



独自の景観都市“新潟”を実現します。

水辺・緑の保全と活用

- 本市の特徴的環境である水辺や緑を保護しながら，市民が親しめる環境整備を進めます。

樹林環境の保護，河川敷等の緑地整備



湿地の保全と活用

- 佐潟，鳥屋野潟，福島潟などの湿地帯の自然環境を保全するとともに，白鳥等の飛び交う水と緑のネットワーク化を推進し，生物の多様性を確保する自然共生空間の創造を図ります。

福島潟・佐潟等の保全，水鳥など野生動物の保護管理



優れた景観の形成

- 景観法に基づく景観計画などにより，信濃川周辺など地区毎の特性に対応した景観規制誘導を行い，良好な景観形成を目指します。

景観法に基づく景観計画などによる，地区特性に応じた景観規制誘導



田園環境の保全と活用

- 農地や農業用施設などの田園資源の保全・活用を図り，水辺の環境の向上に努めます。

田園資源の保全・活用，水辺環境の向上



④ 環境先進都市の構築

市民とともに環境先進都市を目指します。

現状

- 温暖化などの環境負荷による地球環境問題の顕在化
- 地球環境問題に対する市民の関心の高まり

地球環境問題への貢献

省資源・省エネルギーの推進

さまざまな分野での省資源・省エネルギー化により、温室効果ガス削減を図ります。

新エネルギーの導入

太陽光発電など新エネルギーの導入を積極的に行います。

バイオマスの利活用

廃天ぷら油の再生燃料への活用などの先進的取組を通じてバイオマス資源の利活用を図ります。

ヒートアイランド対策の検討

ヒートアイランド現象の発生状況を調査するとともに、公共交通利用や屋上緑化の普及などを促進します。

国際協調の推進

世界規模の環境問題に対し、市の取組や成果を国際的にアピールするとともに、環境保全活動を積極的に推進します。

廃棄物の減量・リサイクルの推進

ごみ分別の徹底と資源化の促進

市民、事業者、行政の協働によるごみの減量・再使用・再生利用の取組を推進します。

3Rの優先順位



環境に配慮したごみ処理体制の充実

効率的で適正なごみ収集体制に努めるとともに、環境に配慮し、安全で安定的なごみ処理施設の整備を進めます。

静脈産業の育成

リサイクル資源の回収や廃棄物処理・処分サービス等の事業を行う「静脈産業」を育成します。

協働と学習で

拓く環境未来

環境教育・環境学習の推進

環境教育・学習により、環境問題解決に資する能力を育成します。

市民との協働の環境づくり

市民・事業者・行政の各主体の協働による環境保全活動を進めます。

H26 の目標

環境負荷の抑制

指標

- 市の事業からの温室効果ガス排出量を5%削減します
- 市民1人1日あたり約100gのごみを削減します

